編集後記

お知らせの欄にもプログラムを掲載しておりますが、今年は９月３日から８日にポルトガルのポルトという都市で第１０回フローアナリシスが開催されます。開催を心待ちにしておられる会員の皆様も多いことかと存じます。というわけで、オーガナイザーの Costa Lima 教授に歓迎のご挨拶を巻頭言に書いていただきました。鹿児島の種子島にポルトガルから鉄砲が伝来して約 500 年ですが、まだ行ったことのない私にとっては興味深い気がいたします。私は残念ながら参加できないのですが、次号に学会の様子の記事を書いていただけると思いますので、楽しみにしたいと存じます。ご期待ください。

さて、今回は 10 年にわたり本水昌二前委員長の元で本研究懇談会の事務局をご担当いただきました岡山大学の大島光子先生に巻頭言をご寄稿いただきました。記事を拝見しますと、ご苦労のご様子が伺えますと同時に本会の活発な活動の足跡を辿ることができます。本当に長い間ご苦労様でした。今後とも編集委員としてご活躍いただけることになっております。

総説の欄には、山梨大学の木羽信敏先生に「化学発光検出フロースルーセンサー」という題目でご寄稿いただきました。

研究論文の欄には、国内外から５報の論文の投稿がありました。会員の皆様からのたくさんのご投稿をお待ちしております。トピックスの欄にも２件の記事をいただきました。

国内の学会情報は徳島大学の田中秀治先生まとめていただきました。また FIA Bibliography は高知大学の受田浩之先生にお願いいたしました。FIA Bibliography は今回で 45 回を数え、総論文数も 8400 報に達しました。文献情報は、FIA の研究者にとっても、また FIA 法を利用する立場の方にとっても重要な情報であります。一方、最近電子ジャーナル化されたとはいえ、文献情報を集めてこのような Bibliography をまとめるのは大変ご苦労の多い仕事だと思います。この欄の存続、廃止について編集委員会でもいろいろ議論し、会員の皆様からのご意見も募りましたところ、折角これまで続けてきた財産でもあるので、続けることにいたしました。受田先生には大学での管理のお仕事も加わりお忙しいとのことで、今回が最後になりました。次号からは岡山大学の高柳俊夫先生にご担当いただけることになりました。今後とも大いにご利用いただければ大変うれしく思います。

お知らせの欄にもありますように、本年の 12 月 1 日に大阪府立大学の八尾俊男先生のお世話で第 47 回フローインジェクション分析講演会が開催されることになっています。FIA やその周辺の分野の研究について大いに議論が活発に行われ、本研究懇談会がますます盛んになることを期待しております。たくさんのご投稿をお待ちしております。

JFIA 編集委員長
今任稔彦